

一般

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	歴史・文化資源等調査普及活用事業			事業コード	0912
担当課等	所属名	教育委員会 歴史文化課	担当係名		
	課長名	教育委員会事務局 歴史文化課	担当者名	菊地 幸裕	電話番号

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード 4	施策	歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	コード 5
	基本事業	歴史的文化遺産の保護と活用	コード 1	関連予算 費目名	一般会計 10款 6項 1目 文化財保護事業(004-01)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度			⇒(開始年度 18年度～)		
事務事業の概要	指定文化財以外の地域に残る歴史的文化資源・遺産を再評価し、収集・蓄積された情報を公開し、地域づくりや地域のブランドとして活用する。					
根拠法令等	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(通称「歴史まちづくり法」)					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
都市化の進展や東北新幹線・東北自動車道の北進に伴い、城下町盛岡の歴史的文化遺産は急激に失われ始めた。社寺古美術品や天然記念物などの指定文化財は保護されたが、地域づくりの資源としての認識がなされないまま、単体の文化財としての保存に終始してきた。バブル崩壊の平成10年頃から、各地で開発の狭間に残されてきた小さな町並みや懐かしい風景などを保存・活用しようという機運が芽生え、指定文化財にならない地域の住まいや生活財、年中行事、風習なども調査・記録し、地域の文化資源情報として収集を開始してきている。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
地域に残された資源について、由来等の調査依頼や「廃棄するには忍びない」として市民から公共施設への寄贈・寄託申し出など、保存収蔵管理等の依頼がある。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか。今後の見通しはどうか						
行政と市民団体がそれぞれの立場から歴史文化の情報を発信し、町並みの保存・活用と呼応していく機運が高まりつつある。平成19年に国の文化審議会文化財分科会企画調査会で、「地方公共団体が中心となって地域の文化財(指定未指定問わず)を周辺環境も含めて総合的に把握し保存・活用する取り組みを、国が支援していく具体的な仕組みが必要である」と提言された。これを受け、文化庁では平成20年度から「歴史文化基本構想」及び「歴史文化保存活用計画」を目指し、文化財の保存・活用の取組み状況が異なる全国20市町村において「文化財総合的把握モデル事業」を実施した。当市も同事業の対象に選定され、平成21年1月からモデル事業を実施し、平成23年3月に「盛岡市歴史文化基本構想」及び「盛岡市歴史文化保存活用計画」を策定した。また、この基本構想及び保存活用計画は「歴史まちづくり法」の関連施策として実施され、将来的にその実現を目指す「歴史的風致維持向上計画」の基となるものである。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	地域の歴史・文化遺産を保存・継承する上で必要となる有形・無形のモノやヒトの資源及びそれらを活用する市民	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 地域に関わる有形・無形の歴史・文化資源の件(点)数	単位	件
				B. 計画地区住民の関心度:問い合わせ件数	単位	件
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) 盛岡市文化財総合的把握モデル事業 ①市内所在の文化財等の現況把握調査及び平成22年度文化財調査報告書作成 ②モデル地区の建造物及び周辺環境の調査図化 ③盛岡市歴史文化基本構想等策定委員会の開催 ④「盛岡市歴史文化基本構想」及び「盛岡市歴史文化保存活用計画」策定 ⑤HP更新による情報発信(随時) 23年度計画(23年度に計画している主な活動) ①新たに地域の資源・遺産を再評価する歴史文化資源の情報収集及び調査 ②市内所在文化財の現況把握等の調査	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 歴史・文化資源の予備調査件数	単位	件
				B. 文化財記録調査業務委託件数	単位	件
				C. 歴史・文化資源調査地域数	単位	件
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	貴重な「文化財」というイメージを払拭し、歴史・文化及び自然環境も取り込んだ歴史・文化資源としての情報を整備し、住民と連携しながら、地域のブランドとして再評価し、地域づくり・まちづくりや世代間交流及び地域の活性化のために活用する	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 対象とする歴史・文化資源の調査達成率 【指標の性格:●上げる ○下げる ○維持する】	単位	%
				B. 保存活用地点・地域達成率 調査地域数/保存活用地点 【指標の性格:●上げる ○下げる ○維持する】	単位	%
				C. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	地域の貴重な歴史的文化遺産を次世代に伝える	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	文化財数(国・県・市指定)(単位:件) 市保存建造物数(単位:件) 歴史・文化資源(石碑・記念碑・歌碑など)累積調査件数(単位:件)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	地域に関わる有形・無形の歴史・文化資源の件(点)数	件	7,317	8,180	9,180	9,227	9,680	10,180	26年度 11,180
対象 指標B	計画地区住民の関心度・問い合わせ件数	件	39	38	40	40	40	40	26年度 40
対象 指標C									年度
活動 指標A	歴史・文化資源の予備調査件数	件	4,610	863	1,000	1,047	500	500	26年度 -
活動 指標B	文化財記録調査業務委託件数	件	3	3	1	0	0	1	26年度 -
活動 指標C	歴史・文化資源調査地域数	件	80	78	50	50	50	10	26年度 -
成果 指標A	対象とする歴史・文化資源の調査達成率	%	92	70	80	80	80	80	26年度 -
成果 指標B	保存活用地点・地域達成率 調査地域数/保存活用地点	%	5	10	12	12	13	15	26年度 -
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	7,136	7,585	5,630	4,491	300	300	*****
財源 内訳	④国	千円	6,506	6,955	5,000	3,861			*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	630	630	630	630	300	300	*****
	⑧その他	千円							*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	7,136	7,585	5,630	4,491	300	300	*****
	延べ業務時間数	時間	800	1,200	1,000	1,200	500	500	*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	3,200	4,800	4,000	4,800	2,000	2,000	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	10,336	12,385	9,630	9,291	2,300	2,300	*****

3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である 理由： ↳ 「妥当」とする理由： <input checked="" type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input type="radio"/> その他
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input checked="" type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 現状で妥当である 理由： ↳ 「妥当」とする理由： <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input type="radio"/> その他
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input checked="" type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 現状で妥当である 理由： ↳ 「妥当」とする理由： <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> その他
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 向上余地がない その内容：調査対象区域の拡大や他分野との連携等により、成果の向上を図ることができる。
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある その内容：逐次、市民から情報提供を求められており、新たな情報入手する手段を失う。また、国からの提言により、各市町村において住民参加を得て地域の文化財を周辺環境も含め総合的に保存活用する歴史文化基本構想が重要な位置づけとなっている。
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 類似事業がある <input type="radio"/> 類似事業がない 事業名：景観計画の推進(都市整備部景観政策推進事務局)、町並み景観の保存活用(商工観光部ブランド推進課) ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input checked="" type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない その内容：歴史・文化・観光・景観・まちづくりの枠を超えた横断的な組織体制の整備。例えば、市長部局内に、まちづくりを一体的に推進するための部署「歴史まちづくり課」を新設する。
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない 理由：削減の余地なし。現状では、指定文化財等の維持管理費が予算の主体であり、調査及び保存活用の経費が計上できていない。
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない 理由：削減の余地なし。人的に不足しているため、効率的かつ円滑な調査の実施と保存活用の推進が難しい。
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない 理由：
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない 理由：

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	<p>①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること 歴史文化資源を活用した観光振興や地域活性化が全国的に注目されている。優良な資源を有する本市においても、歴史文化資源を積極的に活用したまちづくりが必要である。</p> <p>②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) いわゆる縦割り組織のために、施策推進の核となる部署がなく、総合的に政策を推進することができない。今後、歴史まちづくりや歴史的風致維持向上計画を進める上で、歴史文化・景観保・観光振興等を含めたハード・ソフト両面からまちづくりを展開する部署(仮称 歴史まちづくり課)を市長部局に設置することが肝要である。</p>
---------	---

5. 課長意見

一次評価	<p>(1)一次評価者としての評価結果</p> <table border="0"> <tr> <td>① 必要性</td> <td>● 妥当</td> <td>○ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>○ 妥当</td> <td>● 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>● 妥当</td> <td>○ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>● 妥当</td> <td>○ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 必要性	● 妥当	○ 見直し余地あり	② 有効性	○ 妥当	● 見直し余地あり	③ 効率性	● 妥当	○ 見直し余地あり	④ 公平性	● 妥当	○ 見直し余地あり	<p>(2)全体総括(振り返り, 反省点)</p> <p>指定文化財以外の歴史的資源や遺産を再評価し、情報公開と活用を進めながら、歴史や文化財への理解促進を図った。</p>
① 必要性	● 妥当	○ 見直し余地あり												
② 有効性	○ 妥当	● 見直し余地あり												
③ 効率性	● 妥当	○ 見直し余地あり												
④ 公平性	● 妥当	○ 見直し余地あり												
今後の方向性と改革改善案	<p>(3)今後の事務の方向性(改革改善案)</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 終了</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 継続</td> <td rowspan="2"> <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 </td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 廃止</td> <td><input type="checkbox"/> 休止</td> </tr> </table>		<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止							
<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携												
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止													
<p>方向付けの理由と改革改善の内容</p> <p>関係部署等と連携しながら取り組んでおり、さらに継続して取り組むことにより、事務の円滑な推進につなげる。</p>														